



日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)
 《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男
 一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2
 TEL: 03-3519-5181 FAX: 03-3597-5171
 メール: jaera-homepage@elv.or.jp H P: http://www.elv.or.jp/

第1回業界関係団体交流会を開催

ELV機構が主体となって自動車リサイクル業界関係13団体が参加



去る1月25日(月)、ELV機構本部会議室において、「第1回 業界関係団体交流会」が開催されました。今回の交流会は、昨今の使用済み車の入手難や資源価格の暴落による経営環境の悪化は危機的なレベルに達しており、業界全体の意見を集約すべきという観点から、ELV機構の河村代表理事が呼びかけて開催されたものです。交流会には、関係13団体の代表者と、オブザーバーとして経済産業省自動車課の保坂リサイクル室長に出席をいただき、合計で23名が参加しました。 (次頁へ続く)→

▼参加団体

1	一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会	8	株式会社エス・エス・ジー
2	一般社団法人ARN	9	日本パーツ協会
3	NGP日本自動車リサイクル事業協同組合	10	一般社団法人部友会
4	東日本自動車解体処理協同組合	11	テクルスネットワーク
5	株式会社JARA	12	リビルト工業会全国連合会
6	株式会社ビッグウェーブ	13	一般社団法人日本ELVリサイクル機構
7	株式会社システムオートパーツ		(オブザーバー) 経済産業省製造産業局自動車課

目次

巻頭言	1
業界関係団体交流会	1
自動車リサイクル士	3
自動車リサイクルサミット	3
ブロック長会議	3
地域の取り組み紹介	4
鉄スクラップ最新情報	5
行事予定・お知らせ	6
編集後記	6

巻頭言

2月6日、宮崎県ELV協同組合の新年会に熊本大学の外川先生と参加しました。宮崎市内の旅館小戸荘にて、黒木理事長ならびに会員事業所6社の参加で開催されました。私は当日宮崎に入りましたが、プロ野球のキャンプで車やホテルは満車・満室ばかりでした。今回参加してみて、宮崎県ELV協同組合は、二代目の方が多く、2カ月に1回情報交換をしているということに驚きました。また、今回の意見交換を通じて、今、業界としては厳しい状態であることをあらためて痛感しました。隣県での交流会なども含め、これからの九州ブロックとしての取り組みについても、貴重なご意見を頂き、参加出来て大変良かったです。

(広報部会 伊地知 志郎)



冒頭の河村代表理事の挨拶・趣旨説明に続き、各団体代表より現状報告・会員の声などを発表していただきましたが、今回の状況については、「過去に経験のないもので、危機感を覚える」という指摘が多くされました。主なものとしては、

- 資源価格の暴落にもかかわらず、仕入れ価格を連動できないし、そもそも使用済みの車を購入することが難しい。
- 軽自動車の割合が増えてきて、部品、素材ともに売上の確保が難しくなっている。
- 事故車も含め、中古車輸出が増え国内流通が量、質ともに低下している。
- 自り法の施行後、使用済み車というカテゴリーが出来たはずだが、世の中には使用済み車という概念が根付いていない。

・・・などというものでした。

使用済み車減少の要因とされる中古車輸出に関する情報として、ELV機構より過去数年分のリサイクル料金の輸出返還実績が示され、全体の台数の増加と、さらには車齢14年以上の低年式車の割合の増加が報告されましたが、この点に関連してオークション業界との議論の必要性、事故車などの不動車の輸出の可否などの意見が出されました。次に、部品リユースの拡大に関しては、ネットオークションにおけるエアバッグの販売、品質問題、また、我々サイドもユーザー目線からのアプローチの必要があるといった意見があり、資源関連としては、国内資源循環を進めるための国としての取り組みの必要性、自り法でのリサイクル料金の取り扱いなどについて意見が出されました。

最後に、オブザーバーとしてご参加いただいた経済産業省自動車課の保坂リサイクル室長からは、「厳しい現状はよく理解している。オークション業界との議論の場の設定などは経済産業省としても取り組んでいく。このような意見の集約の場は重要であり、継続してもらいたい。」との感想をいただきました。

▼当日の次第

日 時	平成28年1月25日（月）15：30～17：30
場 所	一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 会議室
配布資料	【参考資料】業界の現状について
議 題	開会挨拶 業界の現状について・・・【参考資料】 関係業界への影響 事業対策の協議 その他 次回開催の確認 閉会挨拶
	以上

自動車リサイクル士新制度移行講習会、大阪で開催終了



2月25日、エル・おおさか(大阪府大阪市)にて、「自動車リサイクル士 新制度移行特別認定講習会」が開催され、受講者42名を含め、総勢78名が参加しました。これで東京・大阪の計2回、今年度予定の新制度移行講習会がすべて開催終了しました。

▼大阪会場参加状況

受講者	42名
オブザーバー(自治体担当者等)	26名
講師	5名
ELV機構関係者	5名
合計	78名

当日は三木リサイクル技術部会長の開会挨拶から始まり、ELV機構の講師が「自動車リサイクルの実務」「自動車メーカーの取り組み」「自動車リサイクル業界の取り組み」「マネジメント、その他」の講習を行い、最後に東京会場でもご好評をいただいたトヨタL&Fカンパニーの梅原茂氏による特別講習「トヨタ流4Sの進め方」が行われました。受講者は皆、熱心に講習に聞き入っており、その真剣なまなざしが印象的な講習会でした。



関連ニュース：カリキュラムWG、初のスカイプ会議を実施！

自動車リサイクル士カリキュラムWGでは、現在、来年度以降のカリキュラム内容を検討しており、2月4日に初のスカイプ(テレビ電話)での会議を行いました。特に問題もなく集中した議論ができ、非常に充実した内容の会議となりました。同WGでは、3月にもスカイプでの会議を予定しています。

日刊自主催のサミットに参加

CHECK



当日パネラーとして参加したELV機構木内総務部会長にご寄稿いただきました！

2月3日、日刊自動車新聞社主催「第2回自動車リサイクルサミット」がインターコンチネンタルホテル東京ベイにて行われ、「次世代に夢をつなぐリサイクル事業」をテーマに、自動車リサイクル関連10団体による意見交換が行われた。

主に「現在の経済環境と対応策」「人材の育成・確保」「自動車リサイクルの国際展開」について、将来的な方向性について議論され、サミット終了後の懇親会においても有意義な意見交換を交わすことができた。様々な課題を抱える中、自動車リサイクルの高度化や業界発展のためにも、今後、業界内の結束や関係業界との協力強化がますます必要とされると感じた。

(総務部会長 木内 雅之)

第4回ブロック長会議を開催

2月23日、ELV機構会議室(東京都港区)にて、「第4回ブロック長会議」が開催されました。今回は、現ブロック長全8名その他、次期ブロック長候補も2名参加されました。

次期ブロック長候補

- 中部・北陸ブロック 岡野 功 氏(三重県)
- 中国・四国ブロック 岸本 恭秀 氏(岡山県)

各ブロック近況報告では、どのブロックでも入庫を含め、非常に厳しいとの声が多数ありました。本部からは、自動車リサイクル士制度や共同出荷事業、各部会などに関する報告が行われました。最後に、今年度の総括が行われ、良かった点としてブロック長会議を計画どおりに4回開催できた点など、反省点としてブロックによって行政とのコミュニケーションが活発なところとそうでないところがある点などがそれぞれ挙げられました。

ブロック・地域団体の取り組み紹介

■ブロック会議 開催実績（2月開催分）

開催日	会議名	開催場所
2016年 2月 3日	沖縄ブロック会議	デイゴホテル（沖縄県沖縄市）
2016年 2月10日	近畿ブロック会議	エル・おおさか（大阪府大阪市）
2016年 2月22日	東北ブロック会議	パレスへいあん（宮城県仙台市）

■福島県自動車リサイクル協同組合、組合創設10周年記念式典を開催



さる2月5日、福島県自動車リサイクル協同組合（田村幸男代表理事：写真左）は、組合創設10周年記念式典を福島県郡山市内のホテルにて開催しました。来賓及び協賛企業をはじめ、組合員など54名が出席しました。

開催にあたり田村代表理事がこれまでの組合の歩みを振り返るとともにこれからの厳しい時代に向かって、新しくできた青年部と共に組合が一枚岩となって福島県の自動車リサイクル産業を支えていくことを誓いました。続いて、来賓を代表して福島県生活環境部産業廃棄物課の橋本武士課長、自動車再資源化協力機構理事の川口慎一管理部長、そしてELV機構の河村二四男代表理事がお祝いの挨拶を行いました。河村代表理事の挨拶の中、組合の功績を称える意味で今回特別にELV機構より「地域復興特別賞」の表彰がなされました。その後10周年記念特別セミナーが開かれ、プルデンシャル生命保険ライフプランナーの豊田哲野氏を講師に迎え、「豊田哲野の経営セミナー—事業継承と金融—」と題して「資本主義の世界ではお金は知らないところから知っているところに流れる」など経営及び事業継承のポイントについての説明があり、出席者は今後の経営のヒントを掴んだようです。また第二部では、ベリーダンスショーを見ながらの懇親会を開催し、和やかな内に出席者の交流が深まりました。

■宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合、安全作業などの講義を実施



2月10日、卸町会館（宮城県仙台市）にて、宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合の「第4回定例会」が開催され、その中で安全作業や自動車の新技術などに関する講義が行われました。

まず、同組合の平地理事長による解体作業の安全に関する講習が行われ、次に、自動車再資源化協力機構の鍋谷様による「適正な車上作動処理のための重要ポイント」の説明があり、最後に、株式会社プロトリオス・ボデーリペア技術研修所の小川事務局長による「最新自動車の新技術情報と解体事業者の対応」の講習が行われました。

鉄スクラップ最新情報

■ 2月第4週(24日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供: 日刊市況通信社]



2月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	15,500 ~ 16,500	堅調
	南関東	15,500 ~ 16,500	堅調
名古屋		15,500 ~ 16,500	様子見
関西	大阪	14,500 ~ 16,000	強含み様子見
	姫路	14,500 ~ 15,500	様子見

日本産スクラップ輸出市場 円高で先行き警戒感も

好調さを続けてきた日本産鉄スクラップの輸出市場だが、外国為替市場で円高の傾向が続いていることから、先行き一部で警戒感が広がっている。

23日時点の為替相場(TTS)は1ドル=113.67円。1週間前の115.66ドルに比べ約2円(1.7%)、前月末の121.87ドルに比べ約8円(6.7%)の円高・ドル安となっている。

急速な為替円高で、日本産鉄スクラップの輸出価格がドル建てで値上がりすることになり、新規成約に影響が出る可能性が出てきている。貿易筋は、これまで米国玉に対して割安だったが日本玉が逆に割高になることで、アジアミルからの引き合いが細ることを警戒している。

単純に試算すると、H2の直近の輸出成約価格は1トあたりFOB16,500~17,000円。1ドル=120円で計算するとFOB137.5~141.7ドルだが、1ドル=113ドルならFOB146.0~150.4ドルとなる。円建てで横ばいでも、ドル建てだと10ドル上伸する計算だ。日韓間の海上運賃を20ドルとすれば、円高の進行で韓国向けH2のCFR価格は高値がCFR170ドルを超える水準となる。これに対して韓国向け米HMSの直近成約価格はCFR179ドル。日本玉との価格差は10ドル以下となり、品質格差を考慮すると日本玉の割安感解消が鮮明となっている。

【関東地区】月末が近づき電炉値上げ散発、堅調推移

関東地区の鉄スクラップ市況は、16日の電炉各社の値上げ改定後も、安値筋を中心に値上げが散発しており、堅調な推移が続いている。ただ、輸出価格が下落したことや月末が近づいていることもあり、様子見機運も広がりつつある。H2炉前実勢価格は15,500~16,500円中心。H2浜値は、1トあたり16,000~16,500円中心で堅調。しかし船積み予定のない筋の集荷意欲は低下、一部で集荷価格を中心値以下へ引き下げる動きが出ている。

【東海地区】市況の頭打ち感台頭に月末環境で荷動き上向く

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、様子見横ばいの展開が続いている。全般的な発生薄から、鉄スクラップ業者筋のヤード入荷は好調とは言えない状況にある。しかし、市況の上げ一服感に月末環境が重なり、業者間には出荷への動きが広がっており、電炉筋の入荷は全般に上向き気配だ。H2炉前実勢価格は15,500~16,000円どころ中心、高値16,500円どころで据え置き。ここ半月近く模様眺めに入っている。

【関西地区】裏値引き合い残るも反発力欠く展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は強保合い商状が続く。安定した共同輸出船積みを背景に、電炉間の入荷にはなおバラつきが生じたまま。水面下での対応は残りつつも、各社とも新たな裏値加算などを含め値上げ改定には消極的な姿勢を継続している。H2炉前実勢価格は14,500~15,500円(一部上値16,000円)、新断バラ炉前実勢価格は同16,500~17,300円。姫路地区のH2炉前実勢価格は14,500~15,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月24日午後時点のもの)

行事予定

3月の主な予定

3月 1日(火)

- 自動車リサイクル士 第6回 カリキュラムWG

3月 2日(水)

- 第2回 自動車リサイクルに係る3Rの推進・質の向上に向けた検討会

3月 3日(木)

- 自動車リサイクル士 第7回 カリキュラムWG

3月10日(木)

- 日本オートオークション協議会との情報交換会

3月15日(火)

- 第12回 広報部会

3月16日(水)

- JIS開発事業 会計検査

3月19日(土)

- 中部・北陸ブロック会議

3月29日(火)

- 第3回 情報発信の在り方等に関する検討会



お知らせ

◆会員数（2016年2月末日時点）

総数 596社 / 会員 568社、賛助会員 28社

◆エアバッグ類車上作動処理時の安全対策 （自動車再資源化協力機構からのお知らせ）

2015年8月にご案内しましたが、車上作動処理実施の際にインフレーター等が破断するとともに部品が車外に飛散するという事象がまれに発生していることが報告されています。つきましては、部品が車外へ飛び出すことを最小限にとどめるため、現状実施できる 暫定対応策を改めてご案内いたします。通常の安全作業に加え、以下の対策を実施する事を推奨します。

推奨する安全対策

- ① ハンドル位置を下げ、運転席のヘッドレストを最下部まで下げ、シートを前方に引き出すとともに前に倒す。
- ② フロントガラスに毛布を置き、その上にカバーをかける。
- ③ ボンネットを開ける。

※リコール対象のエアバッグや冠水が明らかな車両のエアバッグ類は、引き続き取外回収を行ってください。
※引き続き、従来の安全作業も実施してください。

編集後記

自動車再資源化協力機構様より新冷媒の情報を頂戴しました。HFO-1234yfと呼ばれる冷媒です。まだ使用されている車輛は限られていますが、これから徐々に現行のHFCから切り替わってゆくとのこと。この冷媒の特徴はなんといってもオゾン層を破壊しないことにあります。大気放出しても問題なしということは、我々のフロンガスの回収義務もなくなることに繋がります。技術の進歩に驚かされるとともに、リサイクル業務の流れが変わってゆくことへの戸惑いも感じずにはおれません。▼今年の広報部会のテーマは「我々の未来をどう創るか」です。自動車の大変革期におけるリサイクル業界のあるべき姿、可能性を探ろうというのがこの企画の目的ですが、4回シリーズの第1回目は、自動車技術会の丸山慎一さんをゲストにお迎えして2月16日に機構本部にて行われました。自動車技術会では主に樹脂リサイクルをテーマに取り組んでおります。内容はとても興味深く、座談会は時間が足りないほど盛り上がりがありました。この模様は来月にお届けする予定です。ご期待下さい。

（広報部会 部会長 永田 則男）